

応募者	大成工業株式会社
1. 活動名	インド国環境配慮型污水处理施設の導入にかかる普及・実証事業
2. 表彰の対象となる活動の目的	インドでは今も約6億人が屋外排泄をしており、汚水の適正処理が不十分なため土壌や公共用水域の水質汚染の拡大や下痢症等の健康被害が発生している。当社が開発し日本国内 550 カ所以上に実績のある無電源・無放流で効率性の高い排水処理技術を用い、インドの衛生環境の改善、市民の衛生意識向上、女性の雇用創出への貢献を目的としている。
3. 表彰の対象となる活動内容	(表彰の対象となる活動であることを確認して、チェックしてください。) (① 実施期間、②対象者・参加人数、③実施場所、④活動概要などを記載してください。) ①実施期間 2018 年 4 月より現在 ②参加人数 4名 ③インド国デリー、ムザファルナガル市、バラナシ市 ④JICA、米子市、その他コンサルタント3社とインドの現地 NPO 法人 TARA の協力を得て、2020 年にはムザファルナガル市の大学寮と、バラナシ市の公衆トイレに污水处理施設を設置した。現在コロナの鎮静化を待って、水質のモニタリング調査を行っている。 また、今年7月には首都デリーにショーケースプラントを設置。今後はコロナの状況を踏まえながらショーケースプラントを活用した現地セミナーを開催する予定。
4. 表彰の対象となる活動の自己評価	
①モデル性	(6に記載の活動において、特に他の団体等の模範となるような工夫などについて記載してください。) 当事業は JICA の中小企業海外展開支援普及実証事業を活用しており、高い技術力、商品力を持った中小企業の海外展開のモデルとなり、2021 年東京国際フォーラムで開催された外務省のグローバルフェスタで事例報告を行った。同じく JICA 事業により海外展開をしようとする山陰の企業に、外部委託企業として協力している。
②ネットワーク	(6に記載の活動の効果を高めるために活用した、又は新たに構築したネットワーク(個人・団体とのつながり)について記載してください。) JICA、特にインドへの事業に精通したコンサルタント、インド国内でスタートアップ事業を支援する NPO 法人の協力を得ている。
③包摂性	(6に記載の活動において、「誰一人取り残さない」の理念に則った取組であることや、多様性という視点が活動に盛り込まれていることなどについて記載してください。) 当社製品は特に下水の普及していない場所、また電力の届かない場所に使用できるものであり、誰一人取り残さないという SDGs の理念に通じるものである。 また施設を構築する際には、現地で入手可能な資材を探し、現地の工法を積極的に用いる工夫をしている。
④統合性	(6に記載の活動において、経済・社会・環境の分野における関連課題との相互関連性・相乗効果や、統合的解決の視点について記載してください。) 污水处理は生活の根底にあり、衛生教育、乳幼児の死亡率、女性の社会進出等、経済・社会・環境の全てに関係するものである。当社の污水处理は維持管理も容易であるため、管理技術の無い地域にも普及・持続可能な施設である。
⑤継続性	(6に記載の活動において、活動を継続していくために努力している点(例:財源の確保など)、及び今後の計画について記載してください。) JICA の支援事業は来年6月までの予定。その後は現地 NPO 法人と共にインド国内への普及を行う。JETRO の活用も検討している。
<p>その他、6に記載の活動又は運営主体の特徴、取組のPR等を記載してください。</p> <p>当社の污水处理は 1983 年に販売を開始し、国内で 550 カ所の実績を持ち、環境省の環境技術実証事業となっている。元々は山岳トイレや下水の無い地域がターゲットであったが、無動力無放流である特徴や、維持管理の容易さから高速道路の IC、ダム管理棟に多くの実績がある。この技術は途上国の特に農村地域にも活用できる技術である。</p> <p>今年 8 月にはインドの現状を知りたいと連絡してきた埼玉大学教育学部の教授と学生に現状を報告、デリーでの現地視察の際にはパートナーである現地 NPO 法人が学生を受け入れ、教授から感謝のメールを頂いた。</p> <p>今年 9 月には東洋大学においてビルゲイツ財団にプレゼンする機会も得ることが出来た。</p>	